



をもつてJ K K

全旅連・女性経営者の会
コラム&レポート
Vol.201

三重県鳥羽市・吉田屋和光の吉田絹江と申します。

今回は、跡見学園女子大学の「観光温泉学（温泉と保養）」という授業で、観光業、宿泊業のリアルな私たちの仕事について話す機会をいただきました。

100分という時間の中で、山田会長と次世代観光推進委員会野澤委員長とともにJ K Kについての説明と、お宿について、仕事について、それぞれの旅館の悩み、問題点、地域の

のことなどをお話しさせていただきました。学生たちに宿で働く

未来を描いてもらいたいというご依頼でありましたが、私たちの話



講義に臨んだメンバー

を聞いて、若者から見ると、若者から見る宿泊業、また旅館のイメージが逆に悪くなってしまうのか、少し不安なところもありました。宿の仕事は、

本当にハードで、朝から晩までいろんな仕事を聞いて、重労働です。そして、ご宿泊中のお客様の命をお預かりする仕事ですので、精神的負担もあります。何かあつたら夜中でも駆けつけて、対処しなければならぬこともあれば、リアルな現場のこ

とを話す機会が私たちにあってほしいです。取って熱心に聞いている学生さんや、領いて聞いている学生さんもあり、観光業に興味を持っています。授業を受ける学生さんに、リアルな現場のこ

とを話す機会が私たちにあってほしいです。取って熱心に聞いている学生さんや、領いて聞いている学生さんもあり、観光業に興味を持っています。授業を受ける学生さんに、リアルな現場のこ

女子学生に“旅館”を伝える

ります。

これから就職活動をする学生さんにとって、私たちの話がどのように受け止められたのか、イメージを課題として出していたきましたので、お返事がありましたら、J K K会員の皆さまに共有したいと思います。私たちの話をメモを

にとつてもたいへん勉強になりました。将来、宿泊業を選んで、頑張ってみようと思っていたら、私たちの宿の未来も明るいかなと思います。そして、20歳という若さは何でも挑戦できる年齢でもあるので、思ったことはやってみる、今

（関連記事16面）